

- ① ギター用のケーブルを使用し、ギターを接続します。
- ② PRE-BOOST SWITCH: ブースト機能をオンオフで切り換えます。ペダルタイプのブースターと同様に、プリアンプの真空管に送る入力信号を増幅し、プリアンプ真空管をより激しくドライブさせ、歪みを強調します。両チャンネルで動作します。
- ③ PRE-BOOST CONTROL: 入力信号のブーストレベルをコントロールします。
- ④ PRE-BOOST LED: PRE-BOOST CONTROL が働いている時に点灯します。
- ⑤ LEAD GAIN: リードチャンネルのプリアンプゲインをコントロールします。
- ⑥ LEAD EQ CONTROLS: 一般的なパッシブ・トーンコントロールです。どのような設定でも、常に音楽的に優れたサウンドを得ることができます。目盛が 12 時の位置から調節することをお奨めします。
- ⑦ LEAD EQ PULL SWITCHES: EQ コントロールノブを引くことにより、次のようにコントロールシステムを切り換えることができます。

Bass: Deep- 豊かで重厚な低音を得る事ができます。

Mid: Shift- 中音域を抑えた、よりタイトなサウンドになります。

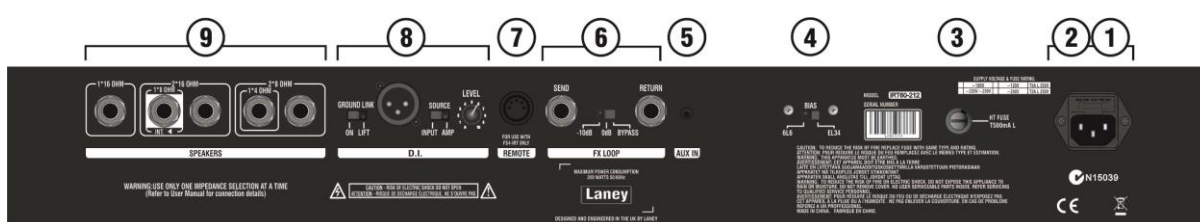
Treble: Shift- 耳触りの良い丸みのある高音を得る事ができます。

- ⑧ LEAD VOLUME: リードチャンネル音量をコントロールします。GAIN と VOLUME の組み合わせにより、多彩なサウンドを作ることができます。VOLUME を上げて GAIN を下げると、温かみのある開放的なサウンドが得られます。VOLUME を下げて GAIN を上げると、歪みの効いた、よりタイトでモダンなサウンドが得られます。一度設定した後は、ギター本体の音量コントロールを使って、トーンと歪みレベルを微調整していきます。
- ⑨ CHANNEL SWITCH: Lead と Clean/Rhythm チャンネルを切り替えます。
- ⑩ CHANNEL LEDS ⑨の Channel Switch にて選択したチャンネルのランプが点灯します。
- ⑪ CLEAN/RHYTHM SWITCH: Rhythm チャンネルのクリーンモードを ON にします。⑫ CLEAN VOLUME を使うと、⑭ RHYTHM GAIN と⑰ RHYTHM VOLUME がバイパスされます。クリーンモードを使うと、プリアンプゲインが下がり、クリアなトーンが得られます。
- ⑫ CLEAN VOLUME: クリーンモード時に、アンプの音量をコントロールします。PRE-BOOST を使うことにより、深い歪みを得ることができます。
- ⑬ CLEAN LED: クリーンモード時に点灯します。
- ⑭ RHYTHM GAIN: ⑤ LEAD GAIN と同じです。

- ⑮ CLEAN/RHYTHM: EQ CONTROLS ⑥ LEAD EQ CONTROLS と同じです。
- ⑯ CLEAN/RHYTHM EQ PULL SWITCH: ⑦ LEAD EQ PULL SWITCHES と同じです。
- ⑰ RHYTHM VOLUM: ⑧ LEAD VOLUME と同じです。
- ⑱ DYNAMICS: 低域におけるアンプのレスポンスをコントロールします。時計回りに回すと、ルーズで太いサウンドが得られ、低く設定しますと、よりタイトなレスポンスが得られます。使用しているスピーカーキャビネットにより、最適な設定は異なります。
- ⑲ TONE: ギターについているトーン・コントロールと同様に使用します。HIGH に設定すると、明るいカッティング向けサウンド、LOW に設定すると、スムーズな丸みのあるサウンドが作れます。目盛が 12 時の位置から調節することをお奨めします。使用しているスピーカーキャビネットにより、最適なトーンとダイナミック・コントロールの補正は異なります。
- ⑳ REVERB: 内蔵デジタルリバーブのレベルを調整します。

21. WATTS: WATTS コントロールは、パワーアンプのレベルを調整します。この機能によりボリュームを絞った状態でもしっかりと歪ませることが可能です。この機能は練習時や、プリアンプのゲインを上げつつ、出力ボリュームを抑えたい場合に便利です。
22. STANDBY SWITCH: スイッチを上げた状態ではプレイモードになり、下げた状態ではウォームアップ・モードになります。
23. STANDBY LAMP: プレイモード時に点灯します。
24. POWER SWITCH: メインパワー・スイッチです。最初にこの電源を入れ、真空管のウォームアップをします。ウォームアップの時間は、通常 30 秒から 2 分程度です。
25. POWER LAMP: アンプの電源が入っている時に点灯します。

## リアパネル



- ① MAINS INLET SOCKET: 電源ケーブルを繋ぎます。
- ② MAINS FUSE: このヒューズケースにはメインヒューズが収められています。メインヒューズが切れた場合は、メインパワーソケットのヒューズケースに入っているスペアヒューズと交換してください。ヒューズを交換した後に再度切れる場合はアンプが故障している可能性があるため、ただちに修理に出してください。
- ③ HT FUSE: アンプに異常が起こった場合、電源を切り、ヒューズを確認してください。ヒューズが切れている場合、パネルに表示されているサイズと定格のヒューズと交換してください。交換した後に再度切れた場合は、出力用真空管をチェックし、必要に応じて交換します。真空管に問題が無ければ、販売元に相談してください。
- ④ BIAS SWITCH: 6L6 又は EL34、どちらの真空管を使用するかを選択するスイッチです。使用する真空管が選択されているかご確認ください。IRT120H では、6L6 真空管を 4 個、IRT60H では 6L6 真空管を 2 個まで使えます。最適な性能を得る為に、適切な真空管セットをご使用ください。
- ⑤ AUXILIARY INPUT: 外部周辺機器を接続します。
- ⑥ FX LOOP: FX SEND から送られ、外部エフェクトを通った信号を入力します。ここにジャックを繋いだ場合、内部プリアンプからの信号はミュートされます。

FX LOOP SWITCH: FX ループモードを選択します。

Bypass - FX ループをバイパスします。

0dBu - FX ユニットを 0dB 出力レベルで繋ぎます。

-10dBu - FX ユニットを -10dB 出力レベルで繋ぎます。

FX SEND: 外部の FX ユニットを接続します。外部パワーアンプの接続や、レコーディング用としても使うことができます。

- ⑦ REMOTE: IRONHEART のアンプに、5 ピン DIN ソケット FS4-IRT フットスイッチを繋ぐことにより、Channel, Clean, Reverb, Boost をリモート制御できます。
- ⑧ DI: バランス出力により、外部デバイス (PA ミキサー、レコーディング機器、ステージモニター等)、それぞれの機器に合ったレベルの信号を出力します。他の機器を接続した際にハムノイズが生じた場合、GROUND LINK を切る事で除去できます。

INPUT: アンプの INPUT から入力されたバッファ信号。この信号はスピーカー・エミュレーションを含みません。

AMP: 12 インチ×4 発のスピーカーを通したサウンドをエミュレートします。

- ⑨ LOUDSPEAKER CONNECTIONS: 様々なキャビネットに対応しています。IRT60-212 には 12 インチ・カスタム HH アコースティック 16ohm ラウドスピーカが、並列に 2 個接続されています。外部キャビネットを使用しない場合は、8ohm ソケットに接続してください。IRT212 のような 8 オームキャビネットを内部スピーカーと一緒に使う場合、4ohm (2x8ohm) ソケットに接続してください。機器の故障を避けるため、アンプ単体では使用せず、常にインピーダンスの一致したスピーカーを接続した状態で使用してください。